

栗原の稲作通信

令和元年第6号 令和元年7月23日発行

宮城県栗原農業改良普及センター

宮城県米づくり推進栗原地方本部

電話番号 0228-22-9437

□出穂期 | 北部平坦・中手品種は「8月4日頃」の見込みです（古川農試, 7月16日現在）

□葉いもち防除 | 7月19日に感染好適条件が全域的に出ています（病害虫防除所, 7月21日現在）

発生を確認したら、直ちに、茎葉処理剤で防除しましょう。

□穂いもち防除 | 予防防除のため、水面施用剤による防除を行いましょ。

□追肥 | 葉色が淡く、追肥を行っていない場合は、出穂3日前までに追肥をしましょ。

□草刈り | 出穂10日前以降（7月下旬以降）は控えましょ。

■気象経過

- 7月以降、気温は平年並から低く、日照時間は平年より少なく推移しています。

東北地方1か月予報（東北太平洋側）

予報期間：7月20日～8月19日 令和元年7月18日仙台管区气象台発表より抜粋

特に注意を要する事項

期間の前半は、日照時間が少ない状態が続く見込み

予想される向こう1か月の天候

期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が多く、期間の後半は、天気は数日の周期で変わる見込み。

（気温は平年並の見込みです）

■生育経過 ～ 5月上旬移植のひとめぼれでは減数分裂期に達しています ～

●生育調査ほ（移植）生育状況（7/19現在）

- 草丈：平年より短い
- 茎数：平年並～多い
- 葉色：ほ場により傾向が異なる
- 葉数・幼穂長：平年より少ない・短い

生育調査ほ調査結果（7/19現在）

品 種	地区	田植日	草丈(cm)		茎数(本/m ²)			葉数(枚)			葉色(GM値)			幼穂長(mm)			
			本年	前年比 (%)	前年比 (%)	本年	前年比 (%)	前年比 (%)	本年	前年差 (枚)	前年差 (枚)	本年	前年差	前年差	本年	前年差	前年差
ひとめぼれ	築館	5/4	69	86	89	630	110	123	12.4	-0.2	-0.4	31.5	-7.1	-3.7	163	-23	-20
ひとめぼれ	若柳	5/22	68	90	92	675	113	111	11.6	-0.5	-0.6	34.8	0.8	0.8	8	-22	-38
ひとめぼれ	一迫	5/7	63	80	89	554	103	111	11.3	-1.2	-1.1	36.1	-2.2	0.7	75	18	-16
ひとめぼれ	平均	5/11	66	85	90	620	109	115	11.8	-0.6	-0.7	34.1	-2.9	-0.8	82	-9	-24
つや姫	築館	5/23	58	75	80	557	133	107	10.6	-1.3	-1.4	41.8	3.9	2.6	0.7	-6.0	-3.5
だて正夢	若柳	5/11	72	88	-	514	100	-	11.6	-0.2	-	34.6	0.2	-	12	-43	-
萌えみのり	金成	5/10	68	92	95	490	92	98	11.5	-0.7	-0.9	44.4	0.4	4.4	36	-27	-11

注) 平年値は過去5年平均値（「萌えみのり」のみ過去4年平均値）とする

●直播展示ほの生育状況（7/19現在）

- 前年より茎数が多くなっています。

直播展示ほ調査結果（7/19現在） *べんもり湛水直播（点播）

品 種	播種日		草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉数(枚)		葉色(GM値)		幼穂長(mm)	
	本年	前年差	本年	前年比(%)	本年	前年比(%)	本年	前年差	本年	前年差	本年	前年差
萌えみのり	5月13日	8日遅	53	79	957	143	9.5	-0.9	37.6	-1.9	0.3	-3.0

■今後の管理

●生育ステージの把握 ～ ほ場ごとに幼穂長を確認して生育ステージを把握しましょう ～

幼穂形成期と減数分裂期の目安

生育ステージ	幼穂長	葉耳間長	出穂前日数
幼穂形成期	1～2mm	—	25～20日
減数分裂期	3～12cm	-10～0cm	15～10日

地帯別生育ステージの予測（7/16現在，古川農業試験場）

地帯区分	田植始期～終期	幼穂形成期	減数分裂期	出穂期
北部平坦	5/2～5/19	7/2～7/12	7/12～7/22	8/2～8/8
西部丘陵	5/7～5/26	7/5～7/17	7/15～7/27	8/5～8/13

*「ひとめぼれ」「ササニシキ」を対象に，各生育ステージの幅を各地帯区分の田植始期～終期で予測

●追肥

- ・極端な葉色低下により玄米品質が低下するので，品種ごとに適切な追肥を行いましょ。
- ・有機入り肥料を追肥に使う場合は，肥効が現れるまで時間がかかるので早めに施用しましょ。
- ・一発型肥料を基肥に使用した場合でも，例年葉色が低下しているほ場では追肥を行いましょ。

追肥時期の生育量と追肥量の目安

*生育量が目安の範囲内～下回る場合に追肥が可能です

品 種	幼穂形成期（幼穂長1～2mm）			減数分裂期（幼穂長3～12cm）		
	茎数 （本/m ² ）	葉色 （葉緑素計）	追肥量 （窒素成分） （/10a）	茎数 （本/m ² ）	葉色 （葉緑素計）	追肥量 （窒素成分） （/10a）
ひとめぼれ	470～530	37～39	1kg	450～500	35～37	1kg
ササニシキ	—	—	—	550～580	32～34	1～1.5kg
つや姫	550～580	35～37	2kg	—	—	—
まなむすめ	580～600	35～37	2kg	—	—	—

★だて正夢の追肥量（窒素成分量/10a）

- ・基本は「減数分裂期2kg」
- ・幼穂形成期に1kg追肥をした場合は，「減数分裂期1kg」

だて正夢の生育量の目安

項目	幼穂形成期	減数分裂期
草丈（cm）	64～70	76～82
茎数（本/m ² ）	390～460	380～420
葉色（葉緑素計）	40～42	37～39

*「だて正夢」は「ひとめぼれ」等の他品種より茎数が少なく，葉色が濃くなる傾向にありますが，生育量が表の目安を超えている場合を除いて，追肥を行いましょ。

●水管理

・幼穂形成期以降の基本的な水管理は右の表のとおりです。

幼穂形成期以降の水管理

生育ステージ	水管理
幼穂形成期	中干し終了→走り水で徐々に入水
～穂ばらみ期	間断かん水 *倒伏が心配される場合は飽水管理
出穂始～穂揃期	浅水管理
登熟期	間断かん水 *出穂30日後に落水

◎低温時の水管理

・幼穂形成期～減数分裂期にかけて、日平均気温20℃以下が続く場合、最低気温が17℃以下となる場合は、障害不稔の回避のため、深水とします。

◎高温時の水管理

・出穂後に高温が続く場合、白未熟粒により品質が低下するおそれがあります。高温時には、以下のような方法で可能な限りの対策を取りましょう。

出穂後の高温時水管理

昼間深水・夜間落水管理	午前9～10時頃にかん水、気温が水温を下回り始める午後4時頃に落水
保水管理	走り水や飽水管理により、常に土壌を湿潤状態に保つ *常時湛水より夜間の地温が下がる

●病害虫防除 ～ 葉いもちの発生が報告されています ～

*発生量等は、発生予報第7号(概要版)(宮城県病害虫防除所・7/19発行)に基づいています。

▷いもち病 | 管内で発生が報告されています

- ・アメダスによる感染好適条件の推定では、**7月13日、15日、17日に広域的に準感染好適条件が、7月19日にほぼ全域的に好適条件が出現しており、警戒が必要です。**
- ・特に、ひとめぼれ、ササニシキ、萌えみのり等のいもち病に弱い品種や、直播栽培、飼料用米、WCS稻等の葉色の濃いほ場では、注意して観察し、発生が確認された場合は、下記を参考に防除を行いましょう。

いもち病防除

- 穂いもち予防のため、適期に水面施用剤による防除を行いましょう。
- 「葉いもち」が確認された場合は、直ちに茎葉散布剤による防除を行いましょう。
- 「穂いもち」防除を茎葉散布剤で行う場合、出穂直前、穂揃期、その7～10日後の3回実施しましょう。

▷稲こうじ病 | 発生量は「やや少」の予報

・銅剤による防除適期は、出穂10～20日前です。穂ばらみ期に降雨日数が多いと発生しやすくなります。

▷紋枯病 | 発生量は「平年並」の予報

・要防除水準を超えた場合は、穂ばらみ期から穂揃期に防除を行いましょう。
前年発生が多かったほ場では、特に発生状況に注意が必要です。また、高温多湿で発生が増加します。
要防除水準：穂ばらみ期の発病株率 ひとめぼれ18%・ササニシキ20%

▷斑点米カメムシ類 | 発生量は「平年並」、水田侵入始期は「8月第1半旬」の予報

- ・**出穂直前の草刈りは、斑点米カメムシを水田に追い込むことになるので避けましょう。**
- ・薬剤防除は、「穂揃期+その7～10日後」の2回防除が基本です。
本田内にイヌホタルイやノビエが発生している場合は、1回目の薬剤散布を出穂始に早めましょう。

▷イナゴ類 | 発生量は「多」の予報

・大きくなってからの薬剤防除は効果が低下するので、多発している場合は速やかに防除しましょう。